

「3D 解剖アトラス」

神奈川歯科大学名誉教授 横地 千仞 著

順天堂大学医学部教授・解剖学

坂 井 建 雄

解剖学のアトラスで、何とも楽しい本ができたものだと思う。肉眼解剖の様子が、立体写真になって目の前に飛び出してくるのだ。こんなおもしろいものを作ってしまったのは、いったい誰だ、と思わずつぶやいて著者の名前を見たら、あのRohen-横地のアトラスの横地先生だ。

バラバラと頁をめくって、手ごろな頁を開き、じっと眺めていると、解剖写真が飛び出してきた、思わずほえんでしまう。そんな解剖写真セットが、頭部で10組、頸部で8組、呼吸器2組、心臓7組、腹部5組、骨盤部8組、背面2組、上肢4組、下肢3組、自律神経とリンパ管で3組、合計52組と、盛りだくさんである。そして値段が、税抜きで2,800円と、お手ごろなのもいい。鞆からこの本を取り出して開き、「解剖の写真が飛び出して見えるよ」などと言って素人に見せれば、大いに受けそうだと、楽しみにしている。

3Dアートと称して、少し角度をずらした視点からの図を並べて、視

線を平行にしたり交差したりして立体感を味わう方法は、しばらく前から人気がある。この本は、それがコンピューターグラフィックスではなく、解剖写真になったものである。1つ1つの写真が、これまたすばらしくいい。もともとなったのが、Rohen-横地のアトラスなら、それも当たり前か。

上下見開きの上の頁には、大きめの写真を納めて、ネームを振ってある。下の頁には小さめの3枚組の写真が横に並べあり、右と中央の写真は平行法で、左と中央の写真は交差法で見えるように作られている。好感を持てる親切的なレイアウトである。

こんな気楽なことを言っていると、このアトラスが安易にできあがったのだと誤解する人がいるといけないので、改めて断っておくが、これは実に内容の重たい図譜である。そもそも人体解剖のアトラスには、様々な種類のものがある。かつては絵画的なイラストで表現するアトラスが多数作られた。PernkopfやGrantなどが、その代表例だろ

う。また解剖実習に使うことを前提にした線画のアトラスや、模式図を中心にしたものもある。しかし最近では写真技術と印刷技術の進歩によって、解剖標本の写真によるアトラスが可能になった。しかし写真撮影に耐える良好な解剖標本を、アトラスとして提示できるほど取り揃えることが、いかに困難な大事業であるか。それは解剖標本を実際に作ってみた人でなければ、なかなかわからない。

この3Dアトラスは、そのような重さを少しも感じさせない。この本が感じさせるような気楽な部分が、これまでの解剖学の教育や啓蒙に足りなかったのではないか、そんな反省もしている。まじめな解剖学の専門家が、解剖学に楽しさを与えてくれるこの本に、あまり目くじらを立てないようにと、私のほうは少々まじめに心配している。

● B5 頁112 図1 写真8 カラー
写真200 1997 定価(本体2,800円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)